牧 師 所 感 ：　　異国の地で、人は優しさに救われる

冒頭のタイトルは、朝日新聞“天声人語”から引用した。内容は哲学者の今道 友信さんが 30 才ころ「フランスで、大学の講師になったが、薄給で生活は苦しかった」と思われる。朝日新聞の 天声人語 氏が『今道友信　わが哲学を語る』を読んで コラムに紹介している。筆者は 今道 友信 氏を全く知らないが、在 フランス時代、フランス人から、心にグッと迫る非常に 優しい 人間愛を 体験したという。その 内容とは？

「晩ご飯を食べる小さなレストランで、給料日の前はいつも、一番安いオムレツだけを注文した。『お腹が空いていないから』『疲れているから』と言い訳をしていたら、ある日、店の女性がそっと、二人分のパンを置いてくれた。『二人前でした』と代金を払おうとすると、彼女は『黙って』と口に手をあてて受け取らない。 ― 中略 ―

また、ひどく寒い日には『注文を取り違えました』とオニオングラタンをご馳走してくれた。その何と温かかったことか。美味しかったことか。涙がこみ上げてきた。

暮らしは惨めで、嫌なこともたくさんあった。でも、そんな思い出があるから『私はフランスという国がどうしても嫌いになれないのです』と告白。随分長く引用した。

ところが 天声人語 氏が述べる「異国の地で、人は優しさに救われる。」という言葉は、筆者の 心に 安らぎを与えてくれる。天声人語 氏は 今道 友信 氏の本を読んで痛く感動したと思われる。人間 誰でも異国の地では心細い思いをするに違いない。ところで 今道 友信 氏はフランスでは、異国の 人であった。

同様に筆者も日本国に住んでいる者としては、異国人である。異国人である筆者も、心優しい隣人に出合った時の嬉しさよ！！ ヘイトスピーチに浴びせられた時があっても。天声人語 氏は「さて昨今の日本はどうか。外国人は出て行け、と言わんばかりの冷たい言葉が跋扈していないか。国籍は違っても、この国で地道に暮らす人間同士が憎悪を煽り煽られ、不安におびえる現状を憂う」と。終わりに、筆者は日本にキリストの福音を宣べ伝える為に来た者として、日本人の 幸せを 祈る！